

関東一の祇園「熊谷うちわ祭」

毎年、7月20日から3日間行われる八坂神社の例大祭。病気を退け五穀豊穣と商売繁盛を祈願するこの祭礼は、山車・屋台が「熊谷囃子」とともに市街地を巡行し、その絢爛豪華さから「関東一の祇園」と称されている。

起源は熊谷宿統一の祭りとして寛延3年（1750年）にさかのぼり、うちわ祭の名前の由来は、明治の頃に料亭「泉州楼」の主人が、祭りの期間中に振る舞っていた赤飯に代わり、渋うちわを配布したことにあると語り継がれており、その後、各町競って山車・屋台を購入・製作し、神輿渡御と巡行による現代のうちわ祭の原型が確立された。

山車・屋台は、巡行中に他町区と出会えば、互いに囃子の腕を競い合うよう、笛・鐘・太鼓の「叩き合い」が行なわれる。全町区そろっての「叩き合い」は毎夜場所を変え、最終日には、全12台の山車・屋台がお祭り広場に集結し、「曳っ合せ叩き合い」「年番送り」が行われる。盛夏の夜空に響く勇壮なお囃子は、見る人皆の心を熱くさせてきた。





締太鼓の音が鳴り響く



祭り期間中に配布されるうちわ



巡行して行宮を参拝



扇形に並んで叩き合い





最大の見せ場
“曳っ合せ叩き合い”
“年番送り”



「熊谷うちわ祭」の魅力をもう少し！

お祭り本番に向けて、まちが献灯提灯で飾られ、お囃子の音が鳴り響く様子には心が躍る人も多くいるのではないでしょうか？ 2日目の夜、叩き合い（扇形）が終わった後は、公式には載っていない鎌倉町通りでの叩き合いを楽しむ人も♪

Interview



第弐本町区祇園会所属
新井 未来 さん

熊谷のまちに響く 祭りの鼓動「受け継がれる伝統を感じてほしい」

私がお囃子を始めたのは小学5年生のときでした。毎年、祭りの時期になるといつもの仲間が集まり、その中で過ごす3日間は1年で1番の幸せな時間です。

お囃子の音は熊谷の夏の風物詩で、6月末頃からお囃子の練習の音が聞こえ始めます。まちの景色も祭り仕様に変わっていき、私のようなお祭り人間はとても胸が高鳴ります。

初めて熊谷うちわ祭に来た方は熊谷囃子の音の大きさ、激しさにきっと驚くと思います。町区によって叩き方が全く違うので、ぜひ注目していただきたいです。また、山車が動くときにギシギシと鳴る音は、時代を超えて受け継がれてきたパワーを感じさせてくれます。

昔は男性しかお囃子に参加することができませんでしたが、時代の変化とともに女性も参加することができるようになりました。私も祇園会会員として、伝統をしっかりと受け継いでいきます。一般の方でも、綱を引っ張って山車・屋台を動かすことができるので、ぜひ参加してください！

悠久の伝統を感じる

＃熊谷うちわ祭

埼玉県熊谷市 About Kumagaya City

熊谷市は、人口約19万人、都心から50～70㎞圏内に位置し、古くは江戸時代に中山道の宿場町として栄えた。現在も鉄道網や道路網が発達した交通の要衝で、農商工バランスのとれた県内有数の産業都市でもあり、県北の中心都市としての歩みを進めている。

また、県内唯一の国宝建造物である歓喜院聖天堂を始め、関東一の祇園と称される熊谷うちわ祭、「さくら名所100選」に選ばれた熊谷桜堤など、歴史や文化・伝統を感じることができる。近年では「スポーツ熱中都市宣言」を行い、スポーツによるまちづくりを推進するとともに、「熊谷スマートシティ宣言」を行い、デジタル技術を活用した持続性のある地域づくりを目指している。

様々な魅力あふれるこのまちを、本冊子から少しでも感じていただきたい。